

2018年7月1日



「チバニアン」に関する声明

一般社団法人日本地質学会
会 長 松田 博貴

昨年6月、日本の22機関32名からなる研究グループが、「千葉セクション」（千葉県市原市田淵の地層露出断面）を『国際標準模式層断面及びポイント』（Global Stratotype Section and Point; GSSPと略記）の「下部－中部更新統境界GSSP」に認定されるよう、GSSPの決定機関である国際地質科学連合（IUGS）に提案しました。これを受けて、IUGSのもとにある、国際層序委員会（ICS）の第四紀層序小委員会（SQS）下部－中部更新統境界作業部会で、提出された申請書が審査されました。そして2017年11月、作業部会における投票の結果、「千葉セクション」がIUGS内の上部の委員会に答申されることになりました。その後、日本の別の団体から申請書の科学的データへの異議がIUGSに出され、IUGSでの認定審査プロセスが本年4月から中断していることが報道されています。

地球科学分野における我が国最大の学会と言える日本地質学会として、今回、研究グループの提案内容を本学会の学術研究部会を中心に検討しました。この声明は、その結果を踏まえ、提案内容の学術的意味の説明と本学会の見解を、ホームページに掲載し表明するものです。

過去の地質時代の境界については、その境界年代を含む地層の中で、その時点において世界で最も信頼度の高い地質学的データが揃っている地層、具体的には崖に地層が連続的に露出する地質断面、を選び、世界中の類似の年代を示す地層の対比の基準とします。多数ある地質年代区分について、個々のGSSPの策定にあたるのがIUGSの国際層序委員会（ICS）です。

今回の事案は、第四紀とよばれる若い地質時代の中の細分に関わるもので、これまでGSSPが決まっていなかった更新世の前期と中期の境界（約77万年前）について、この年代を含む地層が連続的に露出する千葉県市原市の崖が「下部－中部更新統境界GSSP」として最適であると提案したものです。認定された場合には、いまから約77万年前から12万6千年前の地質時代は「チバニアン（Chibanian；チバニアン期）」と呼ばれることとなります。したがって、下部－中部更新統境界GSSPの認定とチバニアンという名称採用の可否については、あくまでIUGSにより日本を含む世界各国から選任された専門委員が合議で行う科学的判断に委ねられます。

日本地質学会としては、提案申請書の根拠とされた研究グループらによって公表された学術論文4編の科学的内容を検討し、申請内容が学術的に問題なく、十分意味があることを確認しました。また申請作業が妥当な手続きを踏んでなされていることも確認しました。したがって、今後はIUGSによる科学的判断を待ちたいと考えています。

本件に関するお問い合わせは、電子メールにて main@geosociety.jp までお願いいたします。